

支援対象児童等見守り強化事業 (市委託事業)の取り組み

～社会福祉協議会の役割について～

鈴鹿市社会福祉協議会 地域福祉グループ



かりんちゃん

鈴鹿市の紹介

<概要>

- ・人口:約19万人(2025年)
- ・児童人口: 23,287(2024年度)
- ・出生数:1,188人(2023年度)

- 23の行政区
- 児童相談所1か所
- 外国人住民数9,784人(人口の5%)

<社会資源など>

- ・小学校: 30校
- ・中学校: 11校
- ・高等学校: 6校
- ・特別支援学校: 1校
- ・こども支援施設: 10か所
- ・こども食堂: 14か所

(すずっこ食堂ネットワーク加盟団体)



鈴鹿市 支援対象児童等見守り強化事業の概要

事業の開始

- ◆新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う学校休業により、こどもの見守り機会が減少
- ◆こどもの見守り機会の減少から、児童虐待が増加リスクを懸念したNPOから提案

児童虐待の未然防止のため、令和4年4月から事業を開始



事業内容

- ◆実施主体
社会福祉協議会より再委託を受けたNPO団体
- ◆実施方法
 - ①市報への掲載、募集チラシの配布による対象世帯の募集
 - ②対象世帯の選定
 - ③委託業者の訪問による見守りの実施（月に2回、1回30分程度の訪問）
 - ④児童の状況を鈴鹿市へ報告

鈴鹿市 支援対象児童等見守り強化事業の概要

支援の対象

- ◆市内に居住する18歳未満のこどもがいる世帯のうち以下のいずれかに該当する世帯
 - ①要保護児童等、DV対策地域協議会の支援対象児童等等として登録されている
 - ②経済的に困窮している世帯
 - ③上記以外で見守りの必要があると認めた世帯

鈴鹿市 支援対象児童等見守り強化事業の概要

事業実績

◆令和6年度予算 5,342,000円（補助金：国2/3）

◆これまでの実績（見守り世帯数及び児童数）

令和4年度：（前期）20世帯49人（後期）23世帯41人

令和5年度：（前期）21世帯42人（後期）23世帯46人

令和6年度：（前期）24世帯52人（後期）22世帯55人



補助金の使い道

◆人件費・食材費

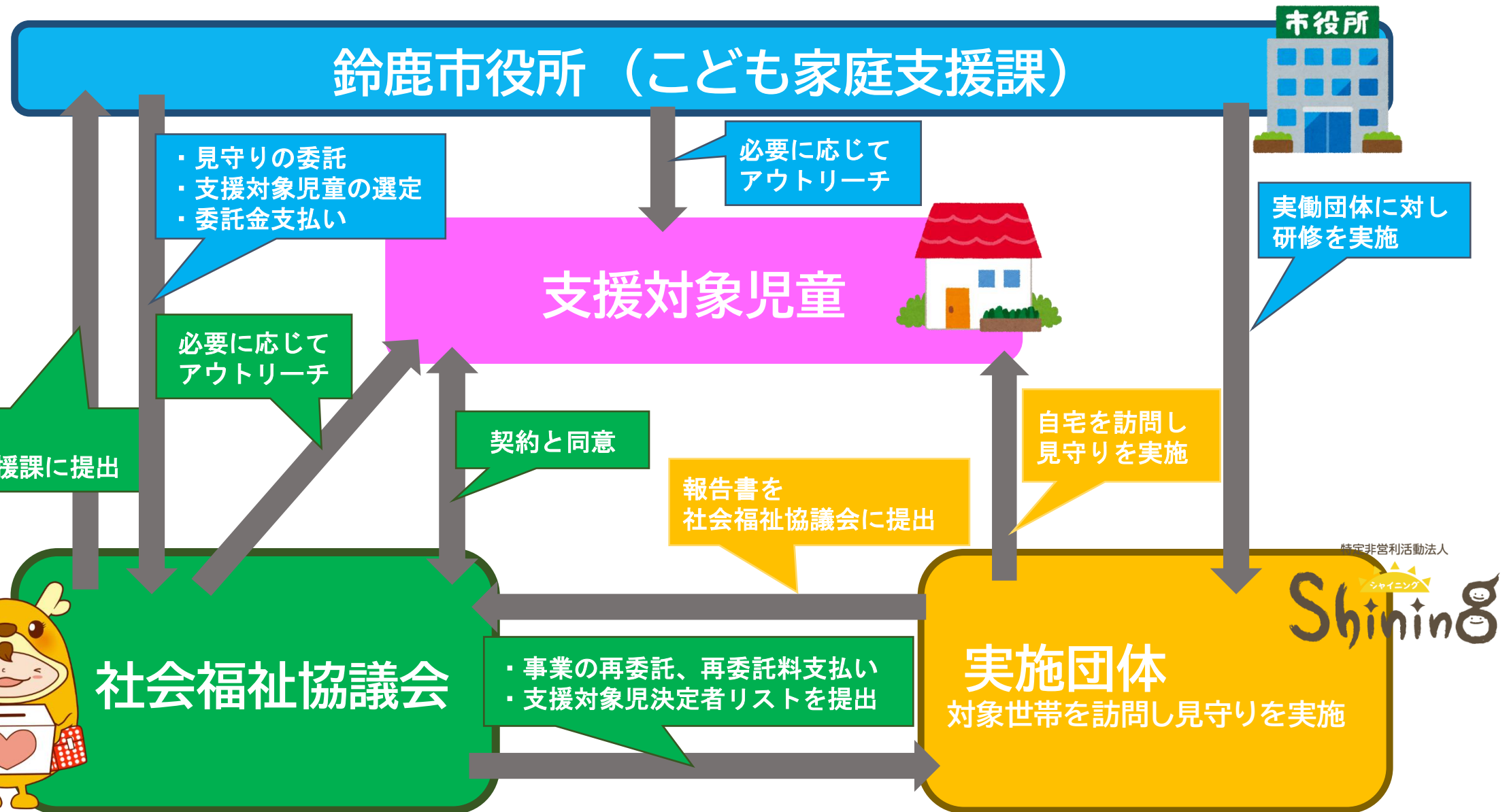
※**食材確保のための工夫**

→ 企業と連携し、安価で食材提供・作業場所までの配達

→ 行政で受けた寄付品の使用



鈴鹿市 支援対象児童等見守り強化事業の概要



鈴鹿市 支援対象児童等見守り強化事業の現状と課題

事業実施を通じて

- ◆家庭の問題を早期にキャッチでき適切な支援に繋げやすくなった
- ◆関係機関との連携が深まった
- ◆こどもの見守りの目、保護者の相談先を増やすことができた

課題について

- ◆利用希望者の増加傾向にあるが、資金の確保が難しい
(見守り期間中に課題解決に至っていない世帯への継続的な支援が難しい)
- ◆予算の確保の課題から次年度の計画が立てづらい
- ◆担い手が限られている
- ◆対象外になった世帯への具体的な支援策が無い

課題を通じて

- ◆こどもへの支援目的の寄付金の利用 → こどもの就学(園)応援事業の実施

鈴鹿市 支援対象児童等見守り強化事業の取り組みについて

ご清聴ありがとうございました

